

子育て支援施設の利用圏と施設の空間構成の事例分析 その1

- 中山間地域における子育て支援施設整備に関する研究 その2 -

子育て支援 未通園児 旧町村  
 需要 立地状況 利用圏

正会員 ○森川 真子\*  
 正会員 吉岡 絢香\*\*  
 正会員 伊藤 優里\*\*\*  
 正会員 山本 幸子\*\*\*\*  
 正会員 中園 真人\*\*\*\*\*

1. 序論

その1で旧町村の施設を4グループに分類した。その中から、代表的6事例と利用者数が極端に少ない萩市の11施設についての事例調査を行うことにより、実際の利用圏を明らかにする。

2. 調査概要

2.1 調査対象施設

調査対象は山口県内全141施設(2012年4月時点)のうち、旧町村に設置された42施設である。

2.2 調査方法

42施設から、未通園児数と利用組数がグループ平均値に近い数値を示す施設を事例分析の対象として選定し、代表的6施設について、施設管理者に運営方法、支援内容・場所等のヒアリングを行った。また、施設の利用者に利用者の年齢、居住地、施設選定理由等のアンケート調査を行った。調査期間は2013年9月から2014年1月、9月から11月である。

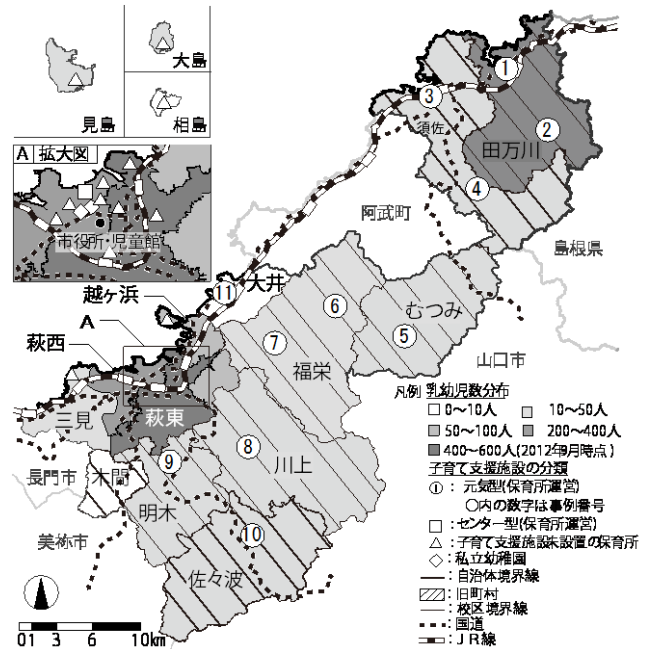


図1 施設立地状況(萩市)

3. グループA(萩市)の事例分析

3.1 萩市元氣子育て支援事業

萩市では市町村合併(2005年)前の1996年に、旧萩市で最も規模の大きかった私立保育園に「センター型」施設が1ヶ所設置されていたが、旧町村部では過疎化が進行しており、子育て支援ニーズや保育園からの要望がなかったため、施設の設置は進んでいなかった。しかし、過疎地域を対象とした「元氣型」事業開始後、市中心部から離れた地域においても子育て支援施設の設置が計画された。そして、市町村合併後、旧町村部においても同様の子育て支援拠点施設の機能が求められたことによって、旧町村部の公立保育園に「元氣型」施設が10ヶ所設置された(2009年)。この事業は市の単独事業へと移行し、萩市元氣子育て支援事業として現在も継続されている。

3.2 施設概要

萩市の11施設の立地状況を図1に示す。施設の選定は、市がバランスを考慮し合併前の旧町村部の公立保育園に設置しているため、市全体に分散されて立地してい

る。また、表1に11施設の概要を示す。運営主体は萩市で、建物形態は保育園である。

運営形態については、園によって異なる。未通園児数が50人以下の校区が多く、子育て支援のニーズが小規模であるため、主に週1日の開設となっており、その他の施設では随時の受け入れとなっている。全11施設でスタッフは子育て支援専任ではなく、保育園の職員との兼任で、1名体制で勤務している。支援の場所は、園舎の解放を行わず、園庭のみの解放を行う施設が2施設ある。園舎の解放を行っている施設では、空き室や、各年齢の保育室を支援の場として開放しており、施設番号2については、相談以外の利用が無いため、職員室・事務室が支援の場となっている。

4. グループA, Bの事例分析

4.1 はじめに

各グループから選定した施設の実態を明らかにするため、事例分析を行う。表2にグループA, Bの調査対象施設、3施設の施設概要を示す。

表1 施設概要(萩市)

施設番号	1 <sup>(注1)</sup>	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	
写真												
施設概要	開設年月	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成21(2009)年	平成18(2006)年	
	建築時期	昭和58(1983)年	昭和59(1984)年3月	昭和59(1984)年3月	昭和31(1956)年7月	平成16(2004)年3月	平成2(1990)年3月	不明	昭和53(1978)年	昭和43(1968)年	昭和55(1980)年	
	構造・階数	不明・1階	鉄骨・1階	鉄骨・1部2階	木造・平屋	木造・平屋	RC・1階	木造・1階	不明・1階	鉄骨・1階	不明・1階	鉄骨・1階
運営形態	支援の場	園庭	事務室	職員室・遊戯室	職員室	各年齢保育室	保育室・遊戯室	空き室・遊戯室	空き室・遊戯室 保育室	遊戯室	空き室	
	駐車場	小学校駐車場借用	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	保育園駐車場	
	園舎開放 曜日・時間	—	—	随時	水曜日 7:30~18:00	第1・3 水曜随時	随時 9:00~16:00	随時	火曜日 9:00~11:00	第1・3水曜日 9:30~11:00	第2・4土曜日 9:30~11:00	水曜日10:00~11:30
業利用前 、下段事業 利用後 、(上段事	園庭開放 曜日・時間	水曜日随時	毎週火曜 7:30~18:00	随時	第2・4土曜 7:30~18:00	—	第1・3土曜日	—	—	—	—	随時9:00~16:00
	1日平均 利用組数 <sup>(注2)</sup>	0.1	0.1	0.2	0.4	0	0.2	0.3	0.2	0.1	0.2	1.1
	スタッフ	当日出勤の職員担当	当日出勤の職員対応	兼任1名	兼任1名	兼任1名	兼任1名	兼任2名	兼任1名	兼任1名	未滿児クラス保育士	兼任1名
業利用前 、下段事業 利用後 、(上段事	親子交流の 場提供と交流 促進	園内行事、 小学校行事の参加	—	園内行事の参加	—	—	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加
	育児相談・ 援助の実施	育児相談	—	参加可能な 園内行事を追加	園内行事の参加	園内行事の参加	—	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加	園内行事の参加
	地域の子育て 関連情報 提供	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	子育てに関する 講習会等実 施	子育て講習会 (園行事)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他 取り組み	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	その他 取り組み	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

注1) 施設番号に網掛けのかかっている施設は、事業活用以前から園独自に子育て支援を行っていた。  
 注2) 平成24年度の年間利用者数を年間開設日数で除したものをを用いる。

#### 4.2 施設A(カンガールーム)

施設Aは美祢市に立地している。美祢市では施設1の他に、旧市の大嶺校区に1ヶ所、旧町村の美東校区に施設B-1が設置されている。施設1は秋芳南校区に立地しており、未通園児数は27人で、その7.7%にあたる2.1組が1日に平均して利用している。隣接する大嶺校区で未通園児数は141人で、その1.6%にあたる2.3組が1日に平均して利用している。

運営主体は美祢市で、建物形式は学童保育施設が併設されている保育園である。運営形態については、開館曜日は週5日、開館時間は9:30から15:30前後の約6時間である。支援の場所は、秋吉保育園の遊戯室(160㎡)の後方に畳を常時設置し活動スペースとしている。しかし、他に空き室がなく、保育園の発表会や入園式前には遊戯室で練習を行うため、この際にはやむをえず子育て支援施設を休館にしている。このように秋吉南校区では、施設の利用が望まれる未通園児数が27人と少なく、支援の場も保育園との兼用で安定して利用できない。

#### 4.3 施設B-1(みと〜っこ)

施設B-1は美祢市の美東校区に立地しており、未通園児数は91人で、その12.3%にあたる11.2組が1日に平均して利用している。美祢市内の大嶺校区よりも未通園児数は少ないものの、1日平均利用組数は5倍となっている。運営主体は美祢市で、建物形式は公共施設である。運営形態については、開館曜日は週2日、開館時間は8:30から12:00前後の約3.5時間である。

支援の場所は美東保健福祉センターの和室(72㎡)を

子育て支援専用室として借りている。駐車場はセンターの駐車場の一角、20台程度が確保されており、十分なスペースが確保されており利用しやすくなっている。

利用者のうち、週1回・週2回の利用者が63.2%である。また、自宅から近いから・知人が利用しているからという理由で利用している利用者が75.7%であることから、仲の良い知人同士での利用がほとんどで新たな利用者がいないことがわかる。

#### 4.4 施設B-2(三隅子育て支援センター)

施設B-2は長門市に立地している。長門市では施設3の他に、旧市に2ヶ所、旧町村に1ヶ所子育て支援施設が設置されている。施設3が立地する三隅校区では、未通園児84人で、1日平均利用組数はその9.0%にあたる7.6組である。支援の場として利用されている三隅保育園は、2005年3月に長門市と三隅町、日置町、油谷町の1市3町が合併した際に、3園が統合され園舎も新築された。これに合わせて子育て支援専用室も併設された。空間面積は100.8㎡で、1日平均利用組数で割ると、1組当たり13.2㎡利用可能である。三隅校区の未通園児数は100人未滿であるが、支援の場所は専用室が完備されており玩具等も充実していることや、駐車スペースが広く確保されていることで利用しやすい環境にある。運営主体は長門市で、建物形式は保育園である。運営形態については、開館曜日は週3日、開館時間は9:30から15:30前後の約6時間である。

隣接校区の他の施設について、深川校区では未通園児数287人で、その3.4%にあたる9.7組が1日に平均し

表2 施設概要 (グループA, B)

施設番号	運営形態	施設概要					運営形態		スタッフ	
		開設年月	構造・階数	建物形式	支援の場(面積)	駐車場	開設曜日(時間)	人数	体制	
施設A	美祿市 (美祿市立秋吉保育園)	1996年4月	鉄筋コンクリート 平屋	保育園 (学童施設併設)	遊戯室の一部 (13.4㎡/160㎡)	保育園用4台 公民館駐車場	月～金 (9:30～11:30、13:00～15:00)	2名(有償)	2名体制 (専任:1、兼任:1注1)	
施設B-1	美祿市 (市立大田保育園)	2002年8月	鉄筋コンクリート 平屋	地域福祉 センター	子育て支援室 (72㎡)	センター専用 20台程度	火、金 (8:30～12:30)	1名(有償)	1名体制 (専任:1)	
施設B-2	長門市 (市立三隅保育園)	2005年4月	木造 平屋	保育園	専用室 (100.8㎡)	保育園専用 20台	月・火・金 (9:30～12:00、13:00～15:30)	3名(有償)	2名体制 (専任:2、兼任:1注2)	

注1)園長がセンター長を兼任している。注2)市内の他の施設スタッフと兼任している。

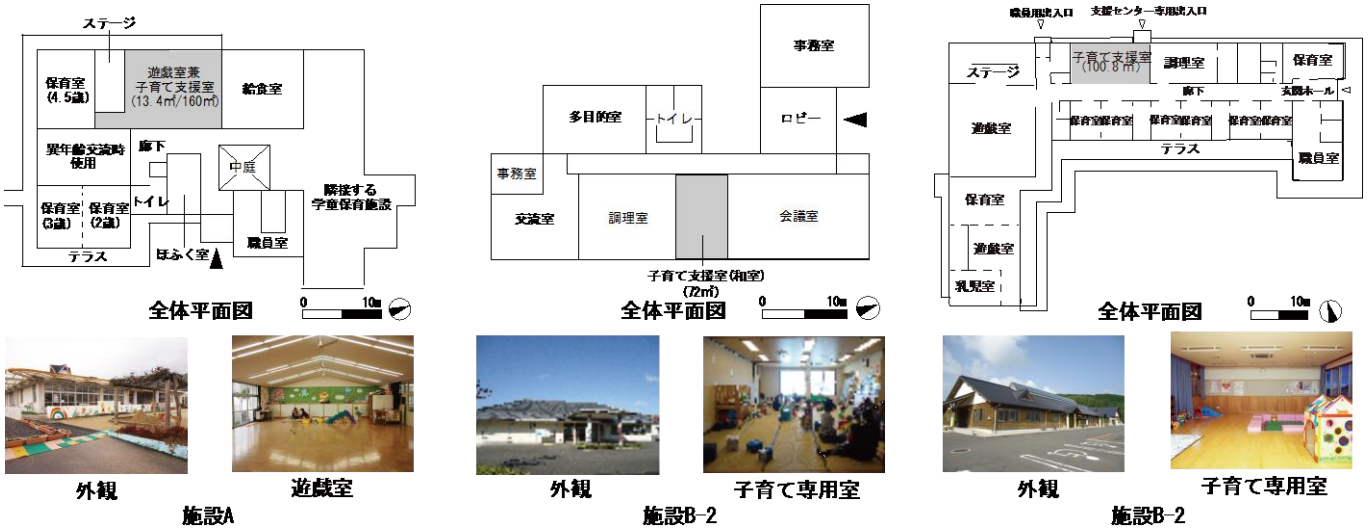


図2 施設平面図

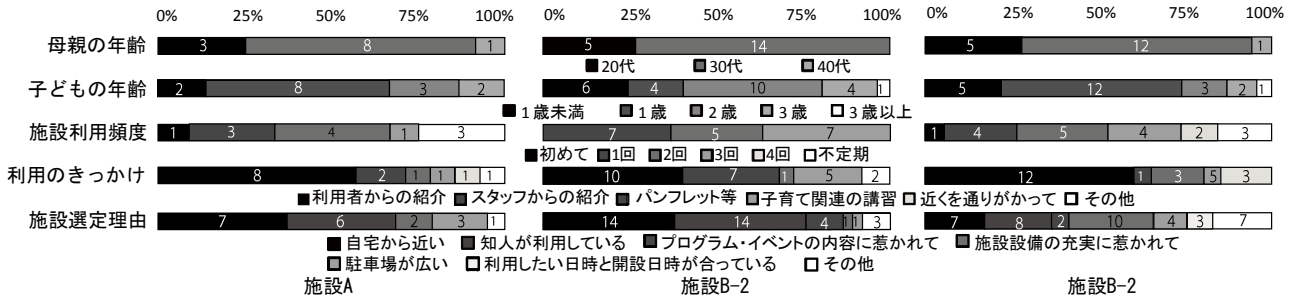


図3 利用者アンケート

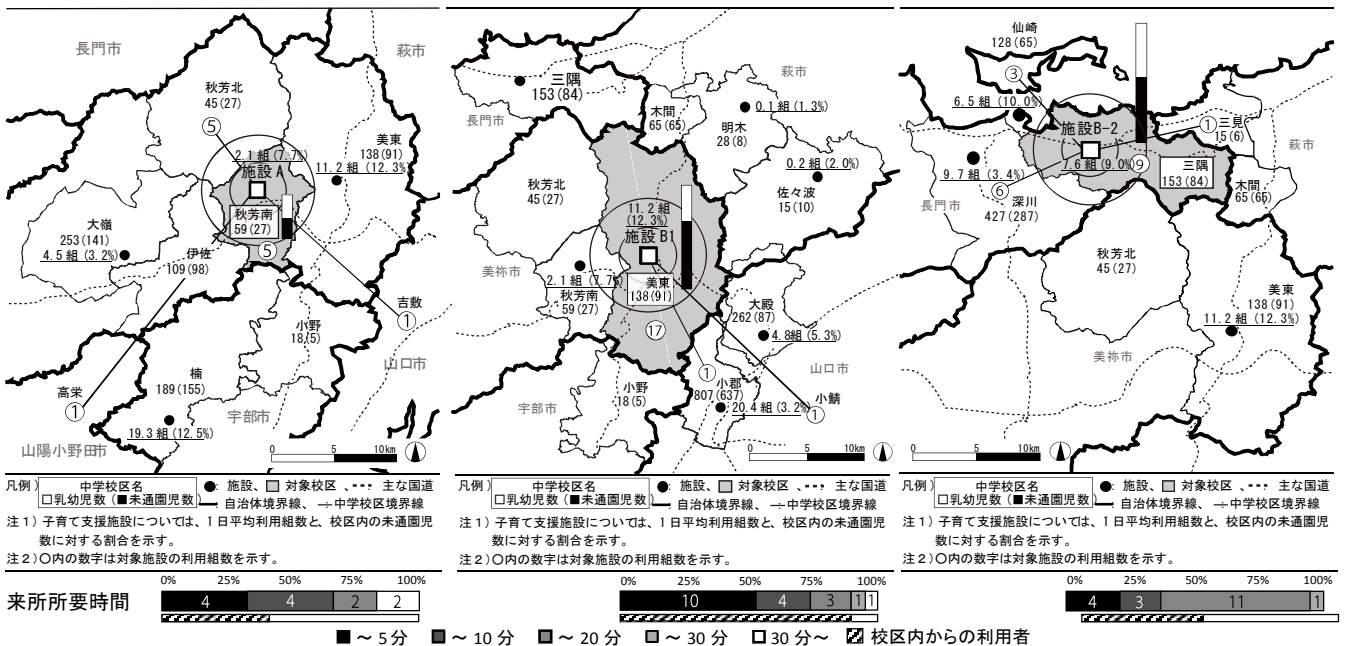


図4 利用圏

て利用している。未通園児数に対して利用組数は少ないのは、施設の空間に限度があるため、1日に利用できる親子が限られるからではないかと考えられる。また、旧市の仙崎校区では、未通園児が65人であるが、1日平均利用組数はその10%にあたり、利用割合が高い傾向がみられる。

## 5. グループA,Bの利用圏構造

図4に施設の利用圏を示す。

施設Aは、校区内からの利用者が41.7%、施設が無い隣接校区からの利用者を合わせると83.3%となっており、車で20分以下で通所できる範囲に居住している。また、山口市と山陽小野田市からの利用者は、実家帰省時の利用者で、その利用頻度は不定期である。

施設B-1は、校区内からの利用者が94.4%を占めている。山口市からの利用者は、以前美東校区に住んでおり、引っ越した後も引き続き利用している。スタッフが1人体制で利用者との結びつきも強く、仲の良い知人同士での利用が確立されている。

施設B-2は、校区内からの利用者が47.4%で、残りは隣接校区からの利用者である。深川校区と仙崎校区からの利用者は、校区内に施設はあるものの、曜日によって仲の良い知人と集まるために施設を使い分け、室面積も広く玩具等の施設設備の整った施設B-2を優先して利用しているためである。また、深川校区からの利用者は、校区内の施設が月曜日は休館日のため、施設B-2を利用していた。

## 6. 結論

得られた知見は以下の通りである。

- 1) 萩市のように未通園児数が極端に少ない校区では、中学校区に1施設という高水準での施設整備がされているものの、利用者が見込めず、施設が機能していない。
- 2) 施設AはグループAで、未通園児数が50人以下の校区に立地しており、表3のカテゴリ数量が-2.89であることから、多くの利用者が見込めないことがわかる。また、支援の場の室面積は遊戯室(160㎡)と広いものの、実質の活動スペースは畳コーナー(12.4㎡)であるため、カテゴリ数量は-1.80となっており、大人数での利用は限られることがわかる。開設日数は週5日と多いが、週1.2回程程度の利用者が58.3%であるため1日当たりの平均利用組数は低くなる。

表3 一日平均利用組数—理論値

	Y (実測値)	Y (理論値)	X <sup>1</sup>	X <sup>2</sup>	X <sup>3</sup>	X <sup>4</sup>	X <sup>5</sup>	定数
施設A	2.1	3.50	-1.80	1.66	-2.89	-0.77	0.37	6.93
施設B-1	11.2	11.72	-0.40	1.63	0.92	2.96	-0.32	6.93
施設B-2	7.6	8.03	-0.40	1.66	0.92	-0.77	-0.32	6.93

Y:一日平均利用組数

X<sup>1</sup>:室面積, X<sup>2</sup>:10km圏内施設数, X<sup>3</sup>:未通園児数, X<sup>4</sup>:建物形式, X<sup>5</sup>:開設日数

- 3) 施設B-1はグループBで、公共施設設置型の施設であるため、カテゴリ数量が2.96となっており、利用者が多く見込めることがわかる。これは、駐車場スペースが広く確保されており、保育園に比べて気軽に来所しやすく、利用しやすいと考えられるためである。また、10km圏内周辺施設数は0施設であるため、校区内からの利用者が主な利用者となっており、利用者は知人同士での結びつきが強いため利用頻度が高く、利用者が多い要因となっている。
- 4) 施設B-2はグループBで、施設B-1と1日平均利用組数の実測値には3.4組の差がある。これは、表3から、建物形式が保育園でカテゴリ数量が-0.77であるため、施設B-1と比べ利用者数が少なくなっていることがわかる。しかし、施設B-2は施設B-1に比べ、施設のある隣接校区からの利用者が多く、施設設備の充実を理由に施設を利用し、目的によって利用者が施設をうまく使い分けしていることや、国道沿いに立地しているためアクセスがしやすく、隣接校区からの利用であっても来所所要時間は20分以下の利用者が94.7%と高いことから、施設の利用組数がグループBの平均の6.4組よりも高くなっている。

## 参考文献

- 1) 大谷由紀子・中山徹・瀬渡章子：全国の自治体における子育て支援センター事業の設置運営体制，日本家政学会誌，Vol.56，No.9，pp.661-672，2005
- 2) 大谷由紀子・田中智子：地域子育て支援拠点事業「ひろば型」の運営体制と課題分析：全国の子育てひろばを対象として(子どもの環境：子育てひろば他，建築計画1)
- 3) 吉岡絢香・山本幸子・伊藤優里・中園真人：自治体及び中学校区を単位とした子育て支援施設の立地動向分析：山口県における子育て支援施設整備に関する研究その1.日本建築学会中国支部研究報告集35，561-564，2012-03
- 4) 山本幸子・伊藤優里・中園真人：山口市における「地域型つどいの広場設置助成事業」の創設と展開，日本建築学会計画系論文集，第77巻，第675号，pp.1145-1153，2012.5

* 山口大学大学院理工学研究科 博士前期課程	* Graduate Student, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
** パナホーム株式会社	** Pana Home Co.,Ltd
*** 山口大学大学院理工学研究科 DC2・日本学術振興会特別研究員	*** DC2., JSPS Research Fellow., Graduate School of Science and Eng.,Yamaguchi Univ.
**** 筑波大学システム情報系 助教・博士(工学)	**** Assistant Prof., Faculty of Engineering, Information and Systems., University of Tsukuba., Dr.Eng.
***** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博	***** Prof., Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr.Eng.